

5. 今月のトピックス 「イネ紋枯病菌について」

1) 多犯性の糸状菌（カビ）です

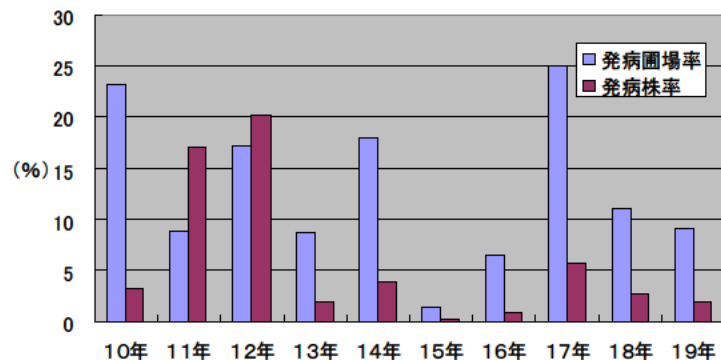
Thanatephorus cucumeris(Frank)Donk という名前の病原菌で、よく知られているイネ紋枯病のほか、トウモロコシ、ダイズ、トマト、ナスにも病気を引き起こします。土中に数年間残ることがあります。

2) イネ紋枯病

水稲ではいもち病に並ぶ有名な病害ですが（右写真）、多少の発生では減収しません。



年によって発生状況は大きく異なりますが、下のグラフをよく見ると徐々に減り、また増えるという周期が見られます。菌核と呼ばれる伝染源が土中に残って翌年の発生量に影響するためでしょう。高温多湿条件で多発しますが、真夏日が続くとかえって暑すぎて抑制されることもあります。降雨が少ない夏には広がらないようです。本年の発生は今のところそれほど多くありません。



三重県におけるイネ紋枯病の発生推移 (7月)

”みえのえみ”はやや弱い品種ですが（下表）、分けつが多いとどの品種でも発生しやすくなります。

コシヒカリ	キヌヒカリ	みえのえみ	みえのゆめ	あきたこまち
中	中	やや弱	中	中

耕種的防除法として、代かき時のゴミを水田から除くとゴミに混ざっている菌核を減らすことができます。強風でゴミが水田の端に吹き寄せられているときにチャンスです。

3) ダイズ葉腐病

イネ紋枯病菌がダイズに感染するとダイズの葉腐病を引き起こします。

主に葉に発生し、葉腐れ症状となります。収穫時にも色づかず、青立ち（写真右）になります。全国的に発生はほとんど見られませんが、2, 3年前から他県で水田跡のダイズにこの病気が発生し問題になっています。生態はよくわかっていませんが、イネ紋枯病が多発した水田跡のダイズ作で発生が多いようです。土中の菌核が感染源となり、高温多雨だと発病を助長します。三重県でも水田輪作ダイズでは感染の恐れがあるので注意が必要です。



(写真は近畿中国四国農業研究センター提供による)